

新設備導入でブランド力向上と 受注拡大を実現した切削刃物研磨企業

課題 小径特注刃具への参入で 製品幅を広げたい

平成5年に切削刃物の再研磨、補修を業として創業した同社は、はじめは再研磨作業のみだったが、その後、顧客ニーズに応えるかたちでサービスを増やしていき、歯の形状や角度の調整、新たな歯切り加工、さらには特殊な切削条件に対応するためのコンサルティングや新規の工具の提案なども行うようになった。難しい加工や被削材に対応できる特注切削刃具メーカーとして信頼を得てきている。

平成23年に経営革新計画を取得し、工場建設およびコーティング事業をスタートさせた同社。コーティング事業は苦戦しているものの、順調に経営を伸ばしているなか、新たに顧客からの要望が強かった小径（MIN φ 0.5）の特注刃具にチャレンジすることになった。

高精度・高品質で対応できることが同社の強みではあるが、径が細くなると設備、技術をそのまま活用することができない。また、前加工、後加工ともに新しい設備が必要となり、太さのバラエティが増えるため、技術的にも高度な技術ノウハウを確立することが重要となってくる。

こうした課題について同社は、ものづくり補助金を活用した新規設備導入について座間市商工会は相談を受けた。

支援 技術力の優位性を高める 新設備を導入

これに応えた商工会では、経営革新計画の作成とものづくり補助金の申請支援を行った。同時に、神奈川県商工会連合会のエキスパート事業を活用し、専門家とともに、新規事業の確認、方向性、課題整理、解決策の検討も行った。

新設備の「円筒研削盤」の導入については、メーカーに見積依頼をした結果、合わせて1億円程度することがわかった。導入資金にはものづくり補助金の活用を検討しているが、収益性については今後も継続して検討が必要とされる。

技術的には、太さが変わると刃具の強度などに大きな影響を与えるため、刃先の形状や角度などに工夫を加えるなど、さらなる検討を重ね、技術ノウハウを確立することが重要だ。

また、事業スタート時は小径の受注量が少ないことが予測されるため、新設備でこれまでの太さの刃具も対応するなどして稼働率を上げるなど、生産管理の仕組みを整備していく



同社の特注刃具

ことも重要となってくる。

小径の特注刃具の売り上げを上げていくためには時間がかかるが、小径もできることで顧客にとっては同社にさまざまな太さの刃具を一括で発注できるメリットがあるため、既存事業の売り上げが向上し、企業全体として大きく成長できる計画といえる。商工会では今後も伴走支援を行い、事業実現のためにもものづくり補助金採択後のつなぎ融資や新規顧客獲得のための販路開拓支援を行っていく。

支援の経過

期間	支援内容
H23年8月	経営革新計画の承認
H29年11月 ～12月	経営革新申請支援開始（ヒアリング）、 専門家と新規事業の確認、方向性検討
H30年2～3月	新規事業の課題整理、 解決策・収益性・実現性の検討
H30年4月	ものづくり補助金の申請支援
6月	経営革新計画の承認

会社概要

会社名：株式会社工研
住所：神奈川県座間市栗原873-10
電話番号：046-266-2013
URL：<http://www.kouken-net.co.jp/>
代表者名：代表取締役社長 比留川幸雄
創業年：平成5年
従業員数：48名
商工会名・担当者名：座間市商工会・門倉智光